

第4章 みどりの将来像および基本方針

4-1 みどりの将来像

本町は、三郡山系や四王寺山系の森林に囲まれ、町の中央には宇美川の清流が流れる自然豊かな地域です。古墳群や大野城跡、宇美八幡宮の大クスなど、古代から続く歴史と文化を今に伝えています。福岡都市圏の発展に伴い都市化が進みましたが、町内にはなお、多様なみどりが残されています。

こうしたみどりは、町民に潤いと快適さをもたらすとともに、“宇美町らしさ”を感じさせる大切な要素です。みどりは、安全で快適な生活環境を支え、人と人、人と自然をつなぐ絆となるため、町民一人ひとりがみどりの価値を再認識し、守り、育み、活かす取組を進め、次世代に継承していくことが求められます。

このような考えから、町民・地域・団体・事業者等が一体となり、既存の自然や歴史・文化資源の保全・活用を図りながら、みどりの価値や魅力を高め、持続可能な発展を目指します。その将来像として、「みんなで守る・育む・活かす みどりでつながるまち 宇美」を掲げます。

【みどりの将来像】

**みんなで守る・育む・活かす
みどりでつながるまち 宇美**

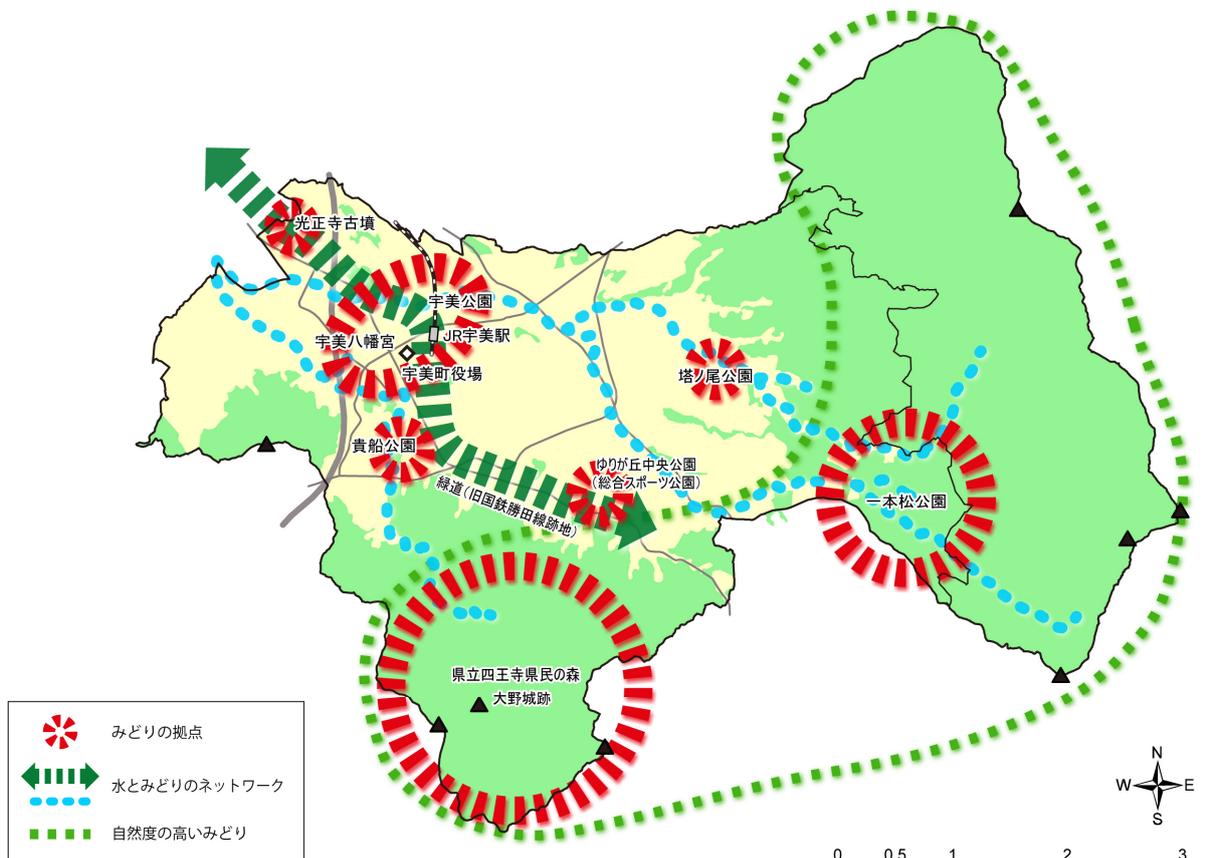


図 将来像図

4-2 基本方針

みどりの将来像の実現に向けて取り組む上での基本的な考え方を、基本方針として次のように定めます。

基本方針【守る】 みどりを守り、未来へつなぐ

本町は、三郡山系の山々や四王寺山脈、井野山に囲まれ、町内には宇美川をはじめとした水辺など豊かな自然環境が広がっています。生態系の維持、水源かん養、土砂災害の防止など多面的な機能を持つこれらの自然は、町民の暮らしを根底から支えるかけがえのない基盤となっています。森林や農地などの土地利用を適切に維持するとともに、荒廃が進む森林については整備を進め、水源保護地域や天然記念物等の貴重なみどりの保全にも努めます。

また、町内には、文献上で日本最古の古代山城とされる大野城跡や巨大なクスを擁する宇美八幡宮、糟屋郡で最大最古級の光正寺古墳など、みどりと深く結びついた歴史・文化資源が存在しており、これらを本町の大切な財産として保全し、自然と歴史・文化が調和した宇美町らしい風景と価値を次世代へ継承します。

基本方針【育む】 みどりを育み、まちに彩りをもたらす

町全体の魅力と暮らしの質を高めるため、都市公園をはじめとする身近なみどりの整備を推進します。貴船公園においては自然とのふれあいを通じた学びや健康づくりの場を創出し、緊急避難場所指定の公園においては防災施設の整備やグリーンインフラによる防災機能の強化を進めます。また、宇美公園の利活用推進、自然環境を活かした一本松公園のレクリエーション機能の向上、ゆりが丘中央公園(総合スポーツ公園)周辺における多様な世代が利用できるスポーツ・健康づくりの場の充実等により、町内の各公園がより活力と魅力のある場となるよう取り組みます。

さらに、水とみどりのネットワークと連携した緑道(旧国鉄勝田線跡地)の再整備など、多様な地域資源と調和するみどりの育成を進め、町全体の景観価値と居住環境の質の向上を図ります。

基本方針【活かす】 みどりを活かし、人がつながる

本町の豊かなみどりを積極的に活用し、その価値を最大限に引き出すことで、人と人、人と自然がにつながる環境の創出を図ります。公園等の適正な配置の検討や、遊具等の適切な管理・更新を行うとともに、町営花壇や街路樹、公園の管理には、住民・事業者・行政の共働で取り組みます。また、一本松公園では民間活力の導入など、持続的な公園運営の検討を進め、県立四王寺県民の森では自然体験活動などの利用を促進します。

さらに、地域資源との一体的な魅力発信を進めるとともに、農業体験など自然とのふれあいの機会を広げ、本町の自然や森林への理解と関心を深めます。こうした取組を通じて、みどりへの愛着を育み、みどりと共に暮らす本町の魅力と活力を高め、町民が心身ともに豊かに暮らせるまちの実現を目指します。